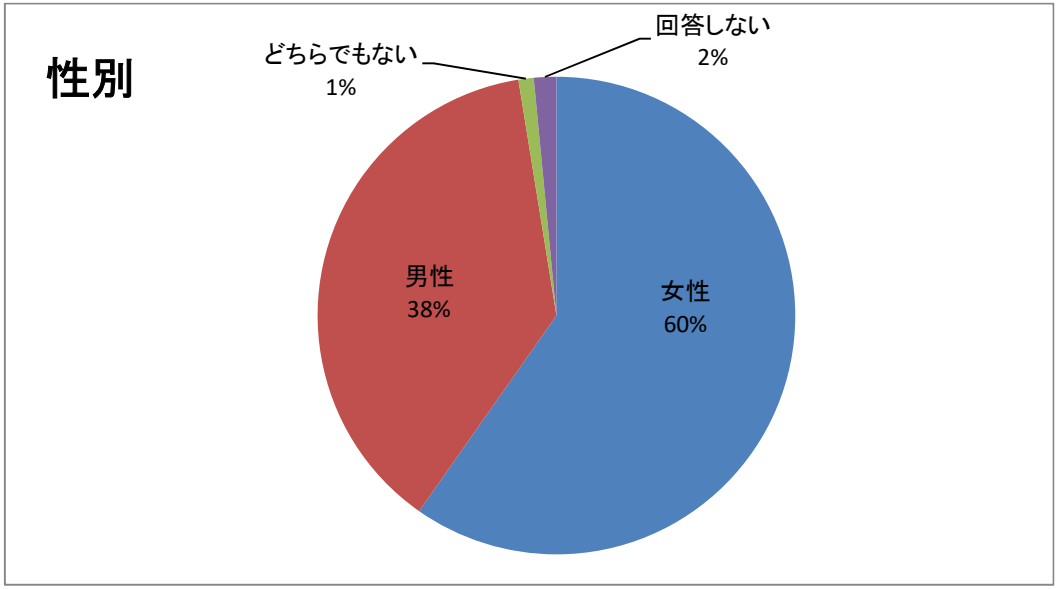
男女平等社会の実現に関するLINE市民アンケート結果について

(目的)
今後の男女平等社会の実現に向けての施策を進めるにあたり参考とすることを目的として、和泉市民に対してLINEアンケートを実施いたしました。

(対象者)
和泉市LINE登録者　約77,000人

(回答者数)
1,771人(女性1,058人　男性668人　どちらでもない18人　回答しない　27人)
(期間)
令和4年10月5日(水)～16日(日)

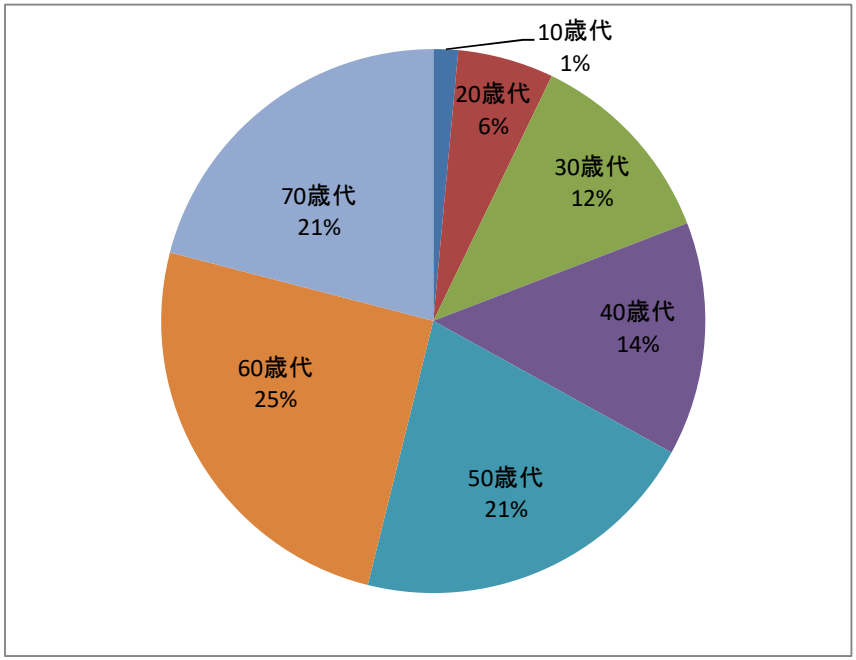
1.性別		
全体	1771人	100%
女性	1058	60%
男性	668	38%
どちらでもない	18	1%
回答しない	27	2%



1.回答者の性別をみると、男性38%に比べて女性が60%と女性の割合が高くなっている。

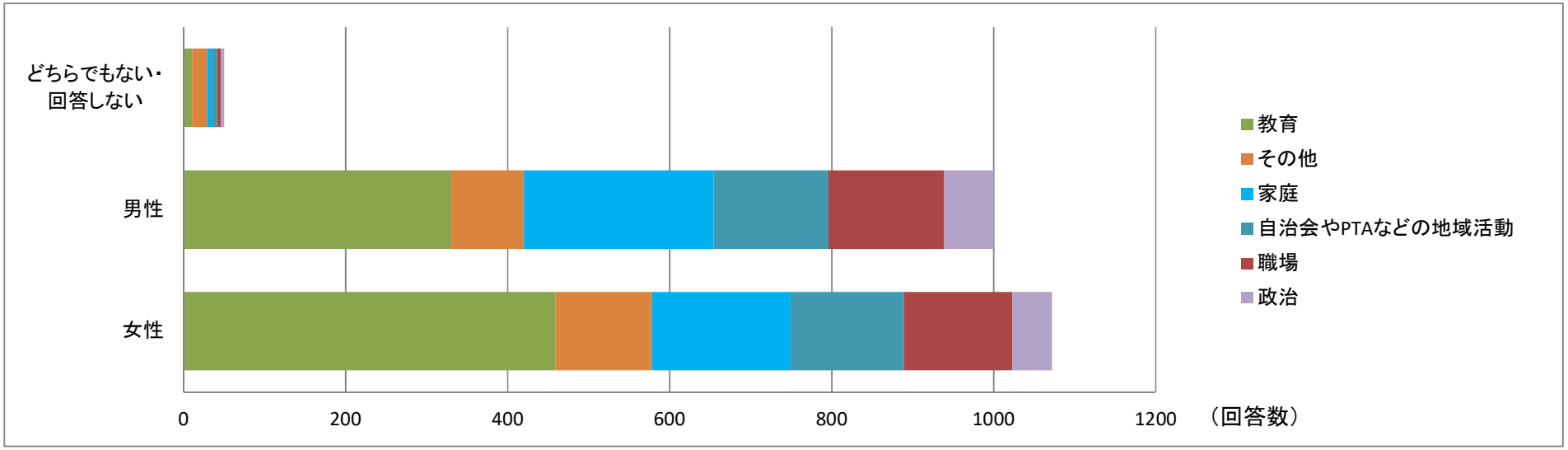
2.年齢														
	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
女性	13	1%	75	7%	146	14%	149	14%	248	23%	265	25%	162	15%
男性	10	1%	21	3%	59	9%	89	13%	115	17%	172	26%	202	30%
どちらでもない	0	0%	1	6%	2	11%	6	33%	2	11%	3	17%	4	22%
回答しない	3	11%	4	15%	5	19%	2	7%	4	15%	6	22%	3	11%
全体	26	1%	101	6%	212	12%	246	14%	369	21%	446	25%	371	21%

2.回答者の年代をみると、女性は「60歳代」の割合が25%と最も高く、男性は「70歳以上」の割合が30%と最も高くなっている。



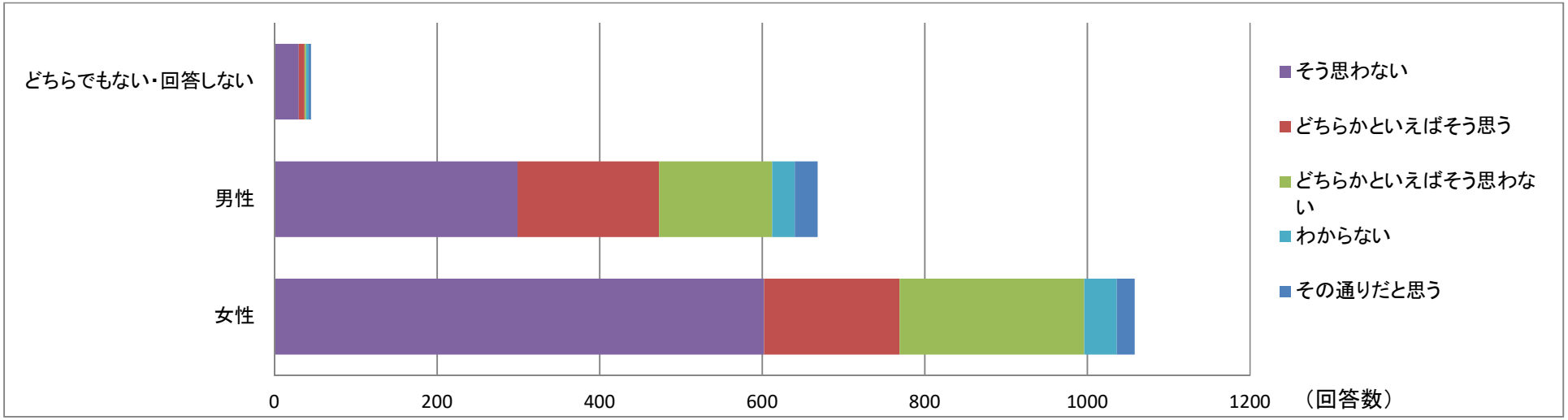
3.どの分野で男女平等参画になっていると思いますか(複数回答可)

	家庭		職場		教育		政治		自治会やPTAなどの地域活動		その他	
女性	171	16%	134	13%	459	43%	49	5%	140	13%	119	11%
男性	234	23%	143	14%	330	33%	61	6%	142	14%	90	9%
どちらでもない・回答しない	5	10%	5	10%	10	20%	4	8%	7	14%	19	38%
全体	410	19%	282	13%	799	38%	114	5%	289	14%	228	11%



3.男女ともに「教育」の分野で平等であると思う割合が最も高く、女性が43%、男性が33%となっている。また、「政治」の割合が女性5%、男性6%と最も低くなっている。これは、令和元年度の大阪府調査と大きな差異はなかった。

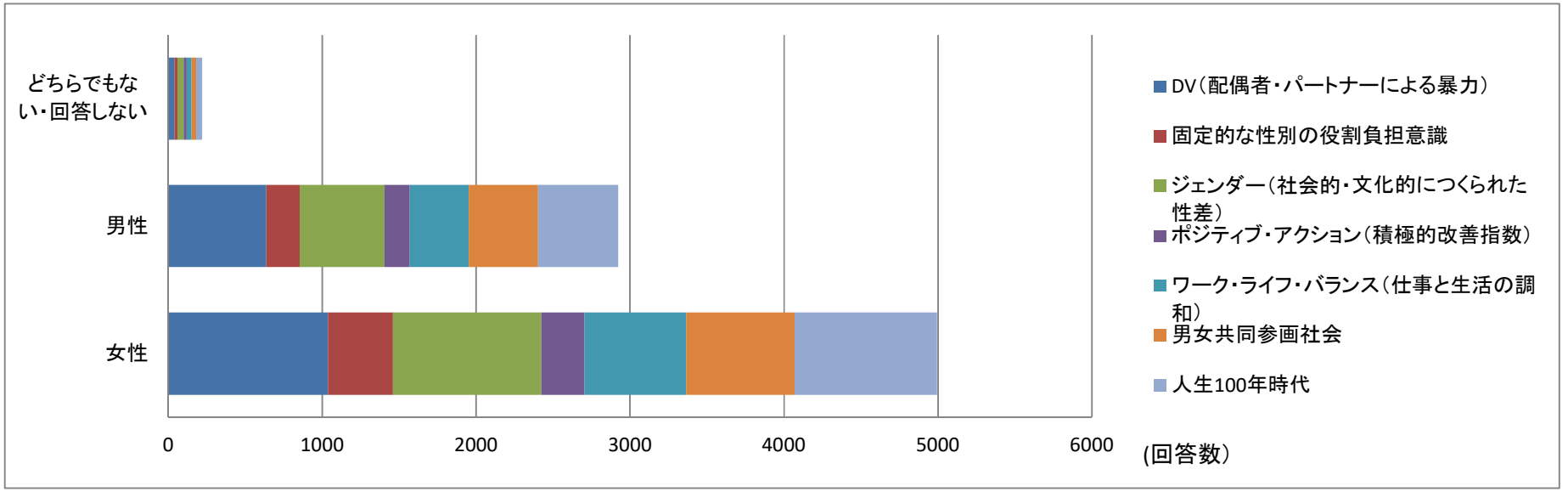
4.「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか										
	その通りだと思う		どちらかといえばそう思う		どちらかといえばそう思わない		そう思わない		わからない	
女性	22	2%	167	16%	227	21%	602	57%	40	4%
男性	28	4%	174	26%	139	21%	299	45%	28	4%
どちらでもない・回答しない	3	7%	7	16%	2	4%	30	67%	3	7%
全体	53	3%	348	20%	368	21%	931	53%	71	4%



4.「その通りだと思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成の割合が、性別でみると女性18%、男性30%と男性の方が高くなっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた反対の割合が、女性では78%、男性では66%と女性の割合の方が高く、性別役割分担に捉われないという意識は女性の方が高いと思われる。

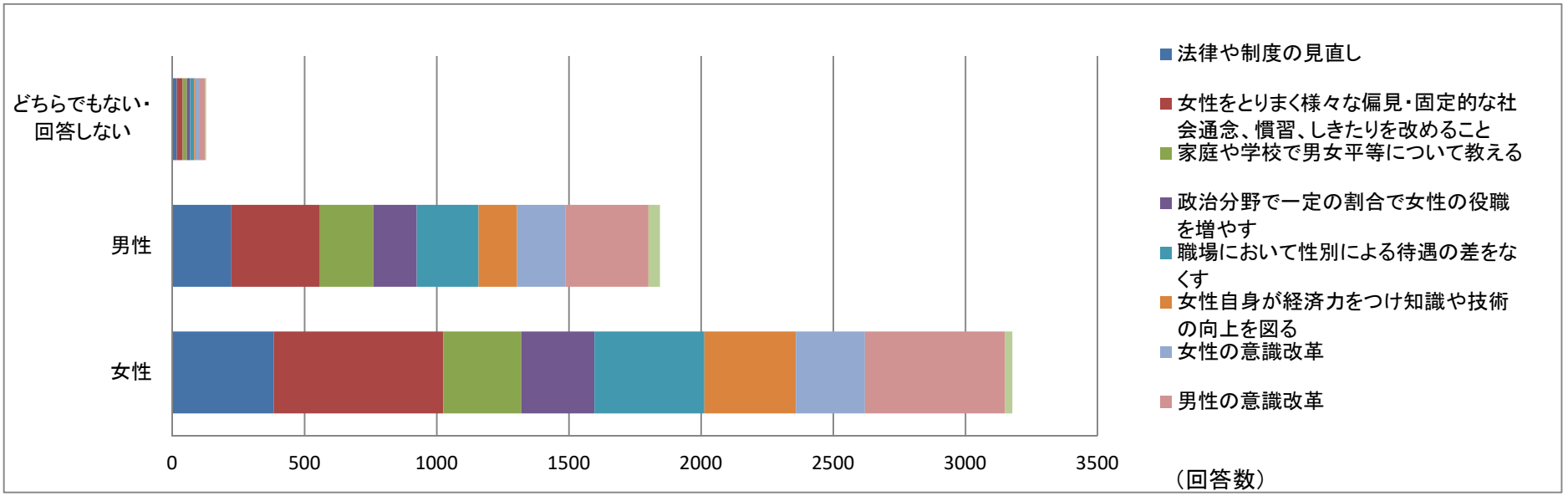
5.知っている言葉を選択してください(複数回答可)

	DV(配偶者・パートナーによる暴力)		固定的な性別役割分担意識		ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)		ポジティブ・アクション(積極的改善措置)		ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)		男女共同参画社会		人生100年時代	
女性	1037	21%	423	8%	963	19%	281	6%	661	13%	702	14%	927	19%
男性	636	22%	218	7%	551	19%	163	6%	383	13%	452	15%	519	18%
どちらでもない・回答しない	39	18%	20	9%	41	19%	20	9%	31	14%	31	14%	38	17%
全体	1712	21%	661	8%	1555	19%	464	6%	1075	13%	1185	15%	1484	18%



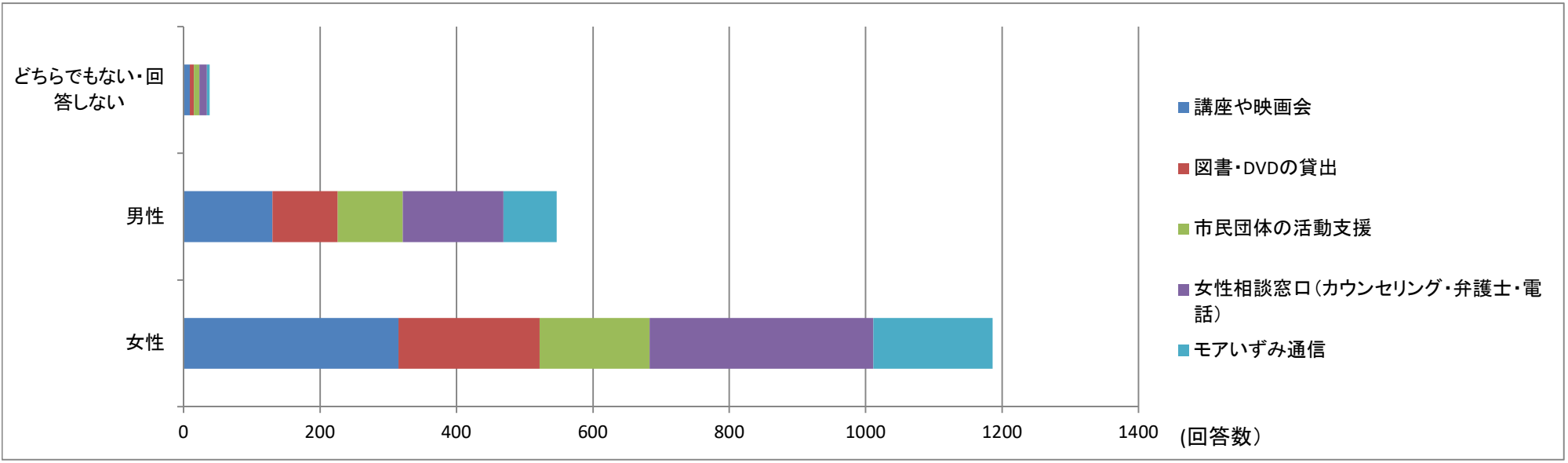
5.男女ともに、「DV(配偶者・パートナーによる暴力)」の認知度が最も高くなっている。次いで「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)」や「人生100年時代」がよく認知されており、現代の世相を反映している。最も認知度が低い言葉は、「ボジティブ・アクション(積極的改善措置)」や「固定的な性別役割分担意識」となっている。また、どれも知らないとの回答は3人のみでした。

6.今後、男女が平等な社会の実現のために最も重要と思われるものを2つ選択してください																	
	法律や制度の見直し		女性をとりまく様々な偏見・固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること		家庭や学校で男女平等について教える		政治分野で一定の割合で女性の役職を増やす		職場において性別による待遇の差をなくす		女性自身が経済力をつけ知識や技術の向上を図る		女性の意識改革		男性の意識改革		その他	
女性	384	12%	641	20%	295	9%	276	9%	417	13%	346	11%	261	8%	530	17%	28	1%
男性	223	12%	335	18%	203	11%	163	9%	234	13%	146	8%	183	10%	314	17%	44	2%
どちらでもない・回答しない	17	13%	22	17%	16	13%	13	10%	15	12%	5	4%	12	9%	23	18%	5	4%
全体	624	12%	998	19%	514	10%	452	9%	666	13%	497	10%	456	9%	867	17%	77	1%



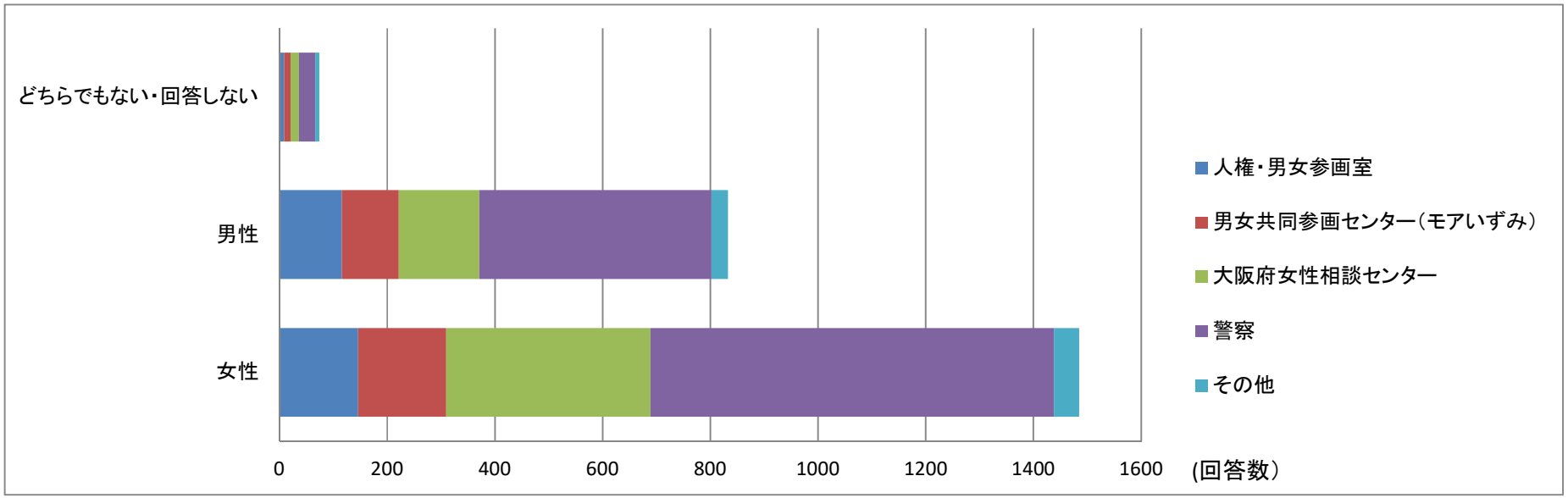
6.「女性をとりまく様々な偏見・固定的な社会通念、習慣、しきたりを改めること」の割合が女性では20%、男性では18%と最も高く、次いで「法律や制度の見直し」の割合が男女ともに12%となっている。

7.男女共同参画センター（モアいずみ）の機能について知っているものを選択してください(複数回答可)										
	講座や映画会		図書・DVDの貸出		市民団体の活動支援		女性相談窓口（カウンセリング・弁護士・電話）		モアいずみ通信の発行	
女性	315	27%	207	17%	161	14%	328	28%	175	15%
男性	130	24%	96	18%	95	17%	148	27%	78	14%
どちらでもない・回答しない	9	24%	6	16%	8	21%	11	29%	4	11%
全体	454	26%	309	17%	264	15%	487	27%	257	15%



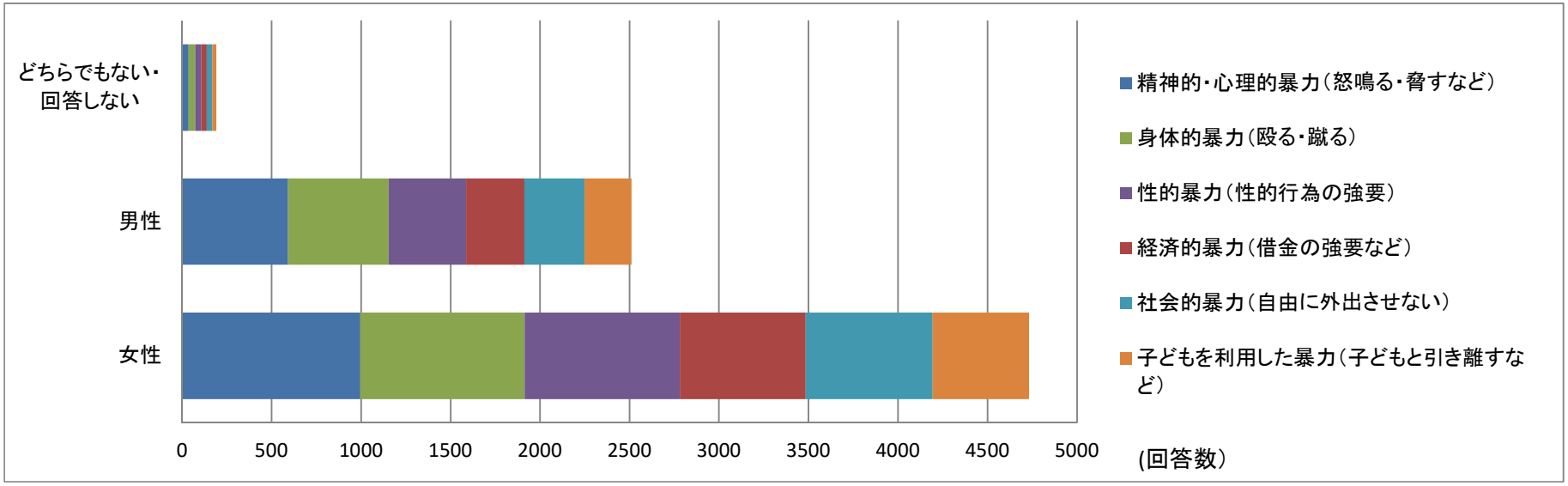
7.「女性相談窓口(カウンセリング・弁護士・電話)」を認知されている割合が、女性28%、男性27%と最も高く、次いで「講座や映画会」が、女性27%、男性24%となっている。また、「モアいずみ通信の発行」が女性15%、男性14%と最も認知度が低く、「市民団体の活動支援」の割合は、女性14%、男性17%となっている。また、どれも知らないとの回答は30%で、市民への周知方法などの検討が必要である。

8.DV（配偶者・パートナーからの暴力）について相談窓口としてどのような場所を知っていますか（複数回答可）									
	人権・男女参画室		男女共同参画センター（モアいずみ）		大阪府女性相談センター		警察		その他	
女性	146	10%	164	11%	379	26%	749	50%	47	3%
男性	116	14%	106	13%	149	18%	431	52%	31	4%
どちらでもない・回答しない	9	12%	12	16%	15	20%	31	42%	7	9%
全体	271	11%	282	12%	543	23%	1211	51%	85	4%



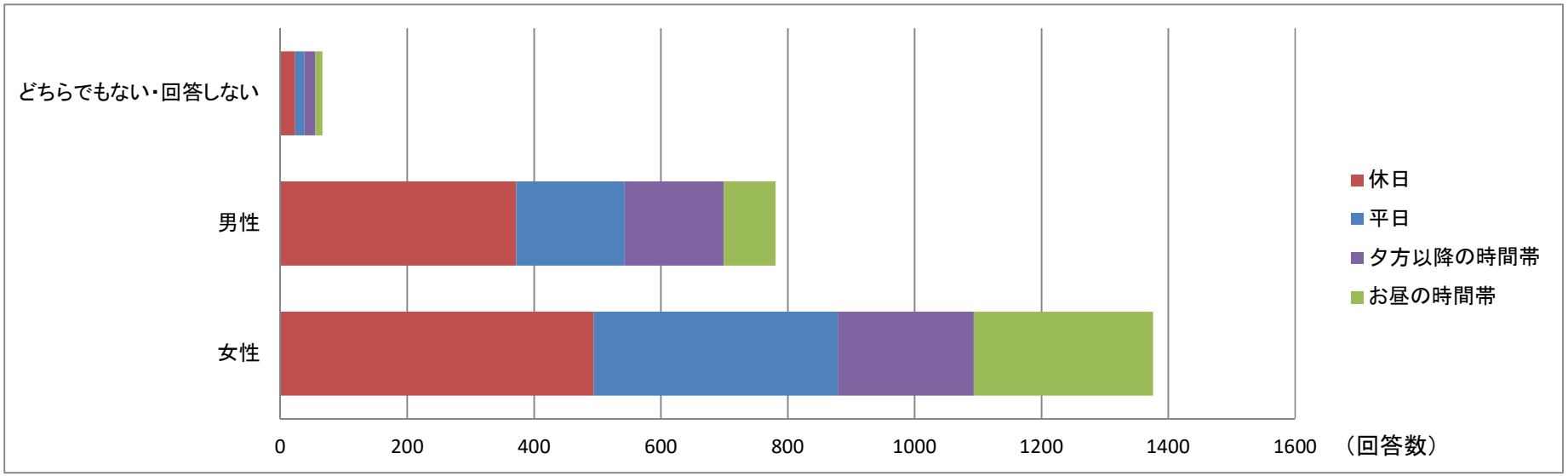
8.「警察」の割合が、男女ともに5割を超えていて、最もよく認知されている。次いで、女性では「大阪府女性相談センター」が26%、「市町村窓口」が21%となっており、男性では、「市町村窓口」が27%、「大阪府女性相談センター」が18%となっている。

9.DV（配偶者・パートナーからの暴力）について、次のような種類があることを知っていますか。（複数回答可）												
	精神的・心理的暴力（怒鳴る・脅すなど）		経済的暴力（借金の強要など）		身体的暴力（殴る・蹴る）		性的暴力（性的行為の強要）		社会的暴力（自由に外出させない）		子どもを利用した暴力（子どもと引き離すなど）	
女性	996	21%	703	15%	919	19%	866	18%	709	15%	539	11%
男性	592	24%	325	13%	561	22%	433	17%	337	13%	263	10%
どちらでもない・回答しない	36	19%	30	16%	37	19%	35	18%	31	16%	23	12%
全体	1624	22%	1058	14%	1517	20%	1334	18%	1077	14%	825	11%



9.「精神的・心理的暴力(怒鳴る・脅すなど)」の割合が女性21%、男性24%と男女ともに最も高く、次いで「身体的暴力(殴る・蹴る)」の割合が女性19%、男性22%となっている。最もDVだと認識されていないのは、「子どもを利用した暴力(子どもと引き離すなど)」で、女性11%、男性10%

10.講座やイベントの参加で重視することを選択してください（複数回答可）								
	平日		休日		お昼の時間帯		夕方以降の時間帯	
女性	385	28%	494	36%	283	21%	214	16%
男性	171	22%	372	48%	82	10%	156	20%
どちらでもない・回答しない	15	23%	23	35%	11	17%	17	26%
全体	571	26%	889	40%	376	17%	387	17%



10.イベントの参加に最も重視することは、男女ともに「休日」が最も高く、時間帯では女性が「お昼の時間帯」、男性では「夕方以降の時間帯」の割合が高くなっている。

【調査のまとめ】

平成26年度に実施しました市民意識調査2，000通の配布のうち、773通の回答数だったのに対して、今回の調査では、LINE登録者77，000人のうち、1，771人からの回答を得ることができました。60歳代の女性と70歳以上の男性の回答率が高く、高齢者にもLINEアンケートは有効に活用できることがわかりました。
また、男女平等になっていると思う分野は教育の現場では進んでいますが、政治の分野ではまだまだ女性の参画が低く、令和元年に行われた大阪府調査と比べても取組みが進んでいないことが判明しました。
男女共同参画センター(モアいずみ)の機能について、まだまだ認知度が低いものが判明しましたので、これらの周知方法やイベント開催日など創意工夫をしていきます。
全体的にみると、男女共同参画の考えが社会全般に浸透してきているものの、固定的な性別役割分担意識が残っていることがうかがえます。
このような意識を払拭することができるよう、わかりやすい啓発や情報提供を検討していくことが今後の課題であると考えます。